

マリン通信が密かにお届けされています皆様、いつもありがとうございます、中本です。

今年も早いもので2月になり、花粉症の季節となりました。西日本は例年に比べると多めの予想とか（全国平均は例年より少なめのような感じです）。目のかゆみ、鼻のムズムズなど花粉症の方は憂鬱な時期ですね（私自身は花粉症でないなのでその辛さは分かりませんが）。いろいろ薬の種類もあり、目薬に点鼻薬、アレルギー薬や漢方薬など、それぞれのシーンによって使い分けましょう。また、対策グッズなども上手く取り入れましょう。相談はお任せ下さい。



さて、今月のテーマは「おたふくかぜ」

# 「おたふくかぜ」

おたふくかぜ（＝流行性耳下腺炎）は、『ムンプスウイルス』に感染することで発症します。ムンプスウイルスに感染し、症状があらわれるまでの期間には約2～3週間です。感染力が比較的に弱いので、感染しても症状がでない場合もあります。これを不顕性感染とよび、感染者の約2～3割にみられます。とくに1歳以下の乳児では、不顕性感染が多いといわれています。感染する年齢では、1～2歳の乳幼児には少なく、3～10歳の小児にもっとも多くみられます。ムンプスウイルスは、くしゃみや咳などでウイルスが飛び散る**飛沫感染（空気感染）、接触感染**でうつるため、保育園、幼稚園、小学校など、子どもがたくさんいる場所で流行する傾向があります。

おたふくかぜの特徴は、**耳下腺部（耳の下、頬の後ろ側、あごの下）の腫れ**です。一般的には片側からはじまり、1～2日間で両側が腫れてきます。片側しか腫れない場合もあります。最初の1～3日間は、腫れている耳下腺部が痛みます。腫れと痛みがひどい場合は、食べ物をかめない、飲み込めないな



どの症状があらわれます。耳下腺部の腫れは1週間～10日間でおさまります。また多くの場合、発熱もみられます。発熱による頭痛、腹痛などがあらわれる場合もあります。ムンプスウイルスに感染すると、からだの中に抗体ができるため、その後はおたふくかぜを発症することはありません。つまりおたふくかぜは、一度かかればその後はかからないということです。

しかし、おたふくかぜと同じように、感染することで耳下腺部が腫れるウイルス（コクサッキーウイルス、サイトメガロウイルスなど）もあり、症状だけではおたふくかぜとの判別が難しい病気もあります。何度も耳下腺部が腫れる反復性耳下腺炎という病気もあります。また、おたふくかぜにかかったことがないと思われている場合でも、不顕性感染のため症状がでなかつただけで、実際は感染した経験のある方も少なくありません。おたふくかぜにかかったことがあるかどうかは、血液検査をし、ムンプス抗体を測定することで確認できます。

ムンプスウイルスの感染期間（人からうつる、または人にうつす期間）は、耳下腺部の腫れがあらわれる**前後5日間**と考えられています。耳下腺部の腫れる前、または不顕性感染で症状がでていない人では、ムンプスウイルスに感染しているかどうかはわからず、その間に他人にうつしてしまう場合があります。とくに集団の場では、一人が感染していると、症状がでる前に大勢に感染していることも多いため、自己予防は難しいといえます。ただし、予防接種（おたふくかぜワクチンの接種）をすることでからだの中に抗体をつくり、おたふくかぜにかからないようにすることは可能です。おたふくかぜワクチンによる予防効果は約90%と考えられています。また感染することがあっても、比較的軽症となる場合が多いです。



おたふくかぜから合併する病気（髄膜炎、脳炎、精巣炎、卵巣炎、心筋炎など）があります。下記の症状がある場合は、必ず診察を受けてください。

- ひどい頭痛、発熱、嘔吐、下痢、けいれんなどの症状がある
- 1週間以上たつのに、耳下腺部の腫れがひかない
- 熱が5日間以上続く
- 耳下腺部の腫れが赤くなる
- 男性では睾丸の痛み、女性では下腹部痛がある